

□ はん濫流の中の歩行の危険性

ため池からはん濫流が発生した際、浸水深が浅くても流速がはやいと、いつも通り歩くことが困難となる場合もあります。そのため、大雨時やため池決壊の前兆現象を確認したら、ため池が決壊する前に避難することを心がけましょう。



□ ため池決壊の前兆現象（こんな現象が発生したら危険）

大雨時

- 急激な水位上昇により、流水が堤体を越えようとする場合
- 漏水が急激に増えた場合や漏水に濁りが生じた場合
- 堤体が陥没し、漏水が生じた場合

地震時（震度4以上）

- 堤体の陥没やひび割れが発生し、急激な漏水量の増加や漏水に濁りが生じた場合

□ 大雨・洪水に関する情報

● 発表する情報と具体的な活用例 ——— 大雨の場合

気象状況		気象庁が発表する情報	
大雨の数日～約1日前	数日後までに警報級の現象発生の可能性が予想され、大雨の可能性が高くなる	警報級の可能性 警戒レベル1 天気予報の発表地域ごとに発表	気象情報（随時）
大雨の半日～数時間前	雨が降り始める 雨が強さを増す	大雨注意報 警戒レベル2 市町村単位で発表	
大雨の数時間～2時間程度前	大雨となる	大雨警報 警戒レベル3相当 市町村単位で発表	土砂災害警戒情報 記録的短時間大雨情報
	大雨が一層激しくなる	大雨特別警報 警戒レベル5相当 市町村単位で発表	
	広い範囲で数十年に一度の大雨		



気象庁では気象警報・注意報に関する情報を公開しています
▶ <https://www.jma.go.jp/jp/warn/>

和歌山市ため池ハザードマップ



ハザードマップは、万が一の地震や大雨によってため池が決壊するおそれのある場合の備えとして、自分や家族の命を守るために役立つ情報を提供するものです。また、住民のみなさんがマップを通じて、想定される災害を事前に知り、自らの避難を考え、地域の防災力向上に取り組まれることを目的としています。

□ 緊急時の連絡先

行政機関	和歌山市消防局	073-422-0119	ライフライン	【水道】和歌山市企業局	073-435-1124
	和歌山県警察本部	073-423-0110		関西電力送配電	0800-777-3081
	和歌山市耕地課	073-435-1051		【電話】会社名：	
	和歌山市総合防災課	073-435-1199		【ガス】会社名：	
公共医療機関			その他		

※【電話】・【ガス】は契約会社に確認して記入してください。

□ 災害用伝言ダイヤル（171）

災害用伝言ダイヤル（171）は、「声の伝言板」（安否情報）の役割をする電話サービスです。被災地内とその他の地域の人々との間で、伝言の録音・再生をすることができます。

伝言の録音

1 7 1 + 1 + 被災地の人の電話番号（市外局番から） → 録音

伝言の再生

1 7 1 + 2 + 被災地の人の電話番号（市外局番から） → 再生

□ 防災行政無線が聞き取りにくいときは

防災情報電話案内サービス

同じ内容を聞くことができます。（自動再生）

☎ 0120-077-199 通話料無料

フリーダイヤル：携帯電話からもご利用いただけます。

防災行政無線放送内容

https://wakayama-city.site.ktaiwork.jp

放送内容を市のホームページから確認できます。
上のQRコードから開くことができます。

防災情報メール

放送内容をメールで配信します。

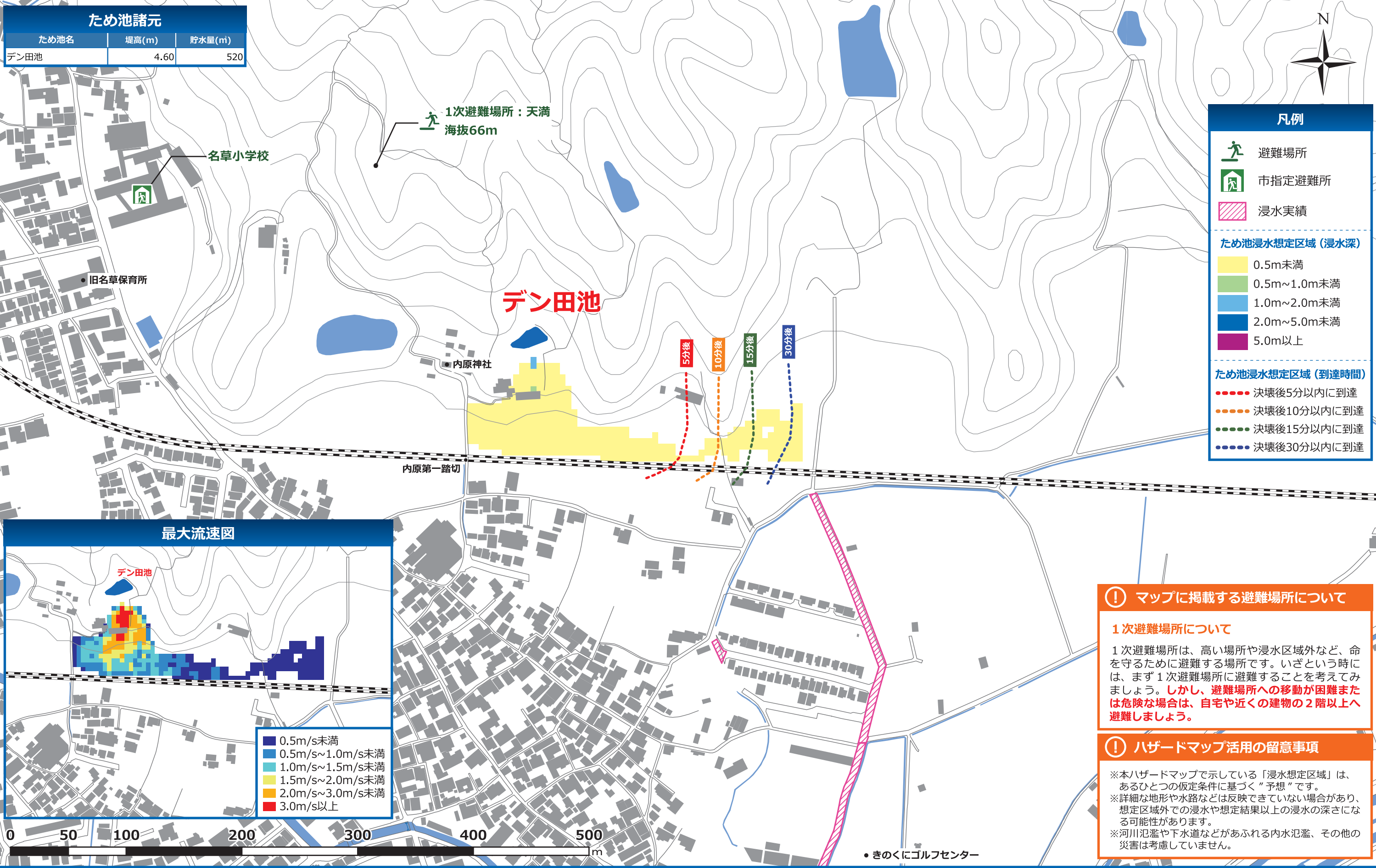
上のQRコードから空メールを送信し、登録できます。

□ わが家の防災メモ

わが家の避難場所		緊急時の連絡先	
家族の集合場所		かかりつけの病院	
非常持ち出し品の一例			
☐ 飲料水	☐ ヘルメット・軍手・タオル	☐ 女性用品	
☐ 食料	☐ 衣類・下着類	☐ 薬・お薬手帳	
☐ 携帯型ラジオ	☐ 筆記用具	☐ 貴重品	
☐ 懐中電灯・乾電池	☐ ライター・マッチ	☐ 眼鏡・コンタクトレンズ用品	
☐ 簡易トイレ・トイレ用紙	☐ 消毒液・マスク・体温計	☐ 赤ちゃん用品	

デン田池 ハザードマップ

ため池諸元		
ため池名	堤高(m)	貯水量(m)
デン田池	4.60	520



凡例

避難場所

市指定避難所

浸水実績

ため池浸水想定区域（浸水深）

0.5m未満

0.5m～1.0m未満

1.0m～2.0m未満

2.0m～5.0m未満

5.0m以上

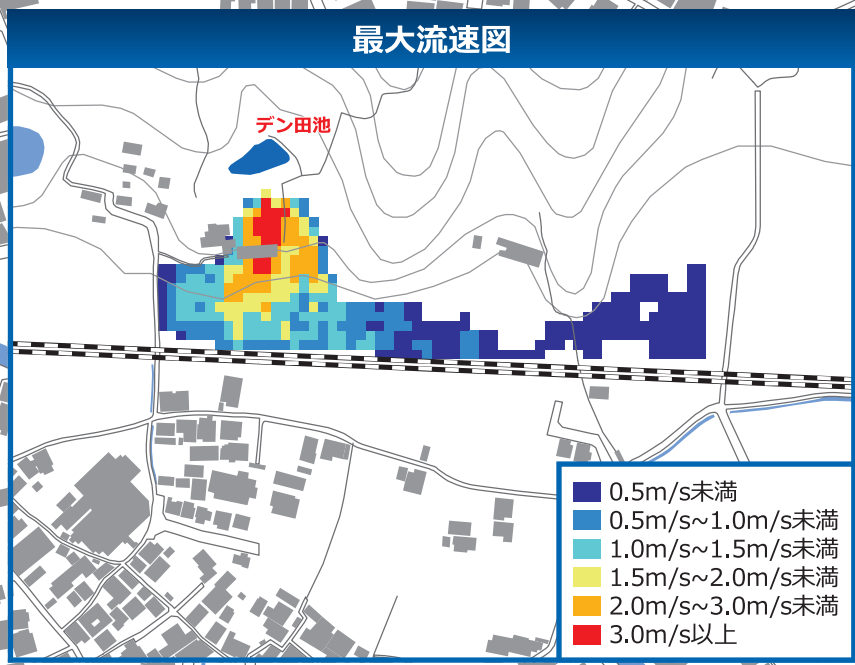
ため池浸水想定区域（到達時間）

決壊後5分以内に到達

決壊後10分以内に到達

決壊後15分以内に到達

決壊後30分以内に到達



きのくにゴルフセンター

① マップに掲載する避難場所について

1次避難場所について

1次避難場所は、高い場所や浸水区域外など、命を守るために避難する場所です。いざという時には、まず1次避難場所に避難することを考えてみましょう。**しかし、避難場所への移動が困難または危険な場合は、自宅や近くの建物の2階以上へ避難しましょう。**

① ハザードマップ活用の留意事項

※本ハザードマップで示している「浸水想定区域」は、あるひとつの仮定条件に基づく“予想”です。
※詳細な地形や水路などは反映できていない場合があり、想定区域外での浸水や想定結果以上の浸水の深さになる可能性があります。
※河川氾濫や下水道などがあふれる内水氾濫、その他の災害は考慮していません。